

長崎市長・伊藤一長氏への卑劣なテロを糾弾する(談話)

2007年4月18日

日本高等学校教職員組合

書記長 加門憲文

(1) 昨夜、長崎市長の伊藤一長氏が暴力団幹部によって銃撃され、本日未明、治療の努力もか
いなく亡くられました。いかなる理由があろうとも、自らの主張を押しとおすために、暴力
によって人を傷つけ、生命を奪うことは、法治国家にあってはならない卑劣なテロ行為であり、
断じて許すことはできません。

犯行におよんだ者に対する強い憤りを感じるとともに、満腔の怒りをもって糾弾するもので
す。あわせて、4選目をめざした市長選の途上で凶弾に倒れられた伊藤一長市長のご冥福を、
心からお祈りいたします。

(2) とりわけ、今回の犯行が、統一地方選挙のさなかに候補者に向けられたテロであることは
重大です。言論・表現の自由や政治活動の自由がもっとも厳格に保障されるべき選挙期間中に、
暴力をもって候補者を攻撃し、生命を奪うことは、自由と民主主義を基調とする法治国家の根
幹を揺るがすものです。

あらためて、捜査当局と政府に対して、厳正な捜査とともに、二度とこのようなテロ行為が
起こらないよう必要な措置をとることを強く求めるものです。

(3) 今回の事件は、この数年、政治家や言論人に対する卑劣なテロ行為がつづき、全教などが
主催する教育研究集会への妨害が執拗につづいていることと無関係ではありません。また、長
年、被爆地・長崎市の市長として、勇気をもって核兵器の廃絶を日本と世界に発信し続けてき
た伊藤市長へのテロは、核兵器廃絶という国民的な悲願を踏みにじるものです。

こうした動きの背景には、平和主義、自由と民主主義、基本的人権の尊重などの日本国憲法
の原則を敵視し、反動的な主張を押しとおすためには手段を選ばない勢力の存在があります。

日高教は、あらゆる暴力やテロに反対するとともに、広範な国民的共同で、平和、自由と民
主主義、基本的人権を守る強固な世論を広げ、暴力・テロを容認する勢力を社会的に包囲する
ために力をつくすものです。

以上